

「歯は尊いもの」という価値観は当然のものであるが、その時点時点での歯の保存の可否は多くの要因に左右される。歯がなくなるということは誰かが判断を下す時であり、その決断のタイミングを示唆する論文は多く存在するが、絶対的な解を与えてくれる論文は 1 つもない。したがって、私たちはその知識を総合的に判断して、賢く、そして患者さんに温かく寄り添いながら、時間軸のなかで判断していくことが好ましい。そのような価値観を共有するチームがどのようにして「患者の口腔生涯健康を守り抜く」ことを可能にしているのかを供覧できれば幸いである。